

明善同窓会関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部
会報発行委員会
事務局：世田谷区上馬 1-2-11
電話：03-3421-6071
ホームページ：
http://www.jinryoku.com/



着任のご挨拶

第二十二代 校長 荻 八州夫



平成24年度4月の人事異動により明善高校の校長を拝命しました荻と申します。これまで校長としては、大川樟風高校で2年、朝倉高校で3年勤め、その後県教育庁高校教育課主幹指導主事として2年勤めさせていただき、この度の着任となりました。

明善高校は、遠く天明3年(1783年)久留米有馬藩の学問所を源流とし、長い歴史と伝統の中に、地元はもとより全国の各界各層に活躍される人材を輩出してきました。そのような高校の校長として光栄に思っていますとともに、その責務を痛感し身の引き締まる気持ちです。特に前任の石井校長先生が、母校の校長として母校愛に燃え、進学、部活動等に輝かしい実績を残されました。そのご功績に敬意を表しますとともに、伝統を継承しつつ、いっそうの飛躍を目指して貢献できたらと覚悟を新たにしています。

本年度、本校は文部科学省からスーパー・サイエンス・ハイスクール(SHS)の研究指定をいただきました。これは国際的な科学技術系リーダーの人材を育成するために、高校が大学や企業等と連携して、その分野の専門的な学問を研究開発するものです。

この事業は5年間実施し、研究費用が上限で六千万円ほど準備されています。今後、教科学習だけでなく関係の部活動でも研究を行っていきませんが、開発推進にあたり、行政や有識者を含めた運営指導委員会を設置します。その委員長として本校OBの正木春彦先生(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)をお願いたしましたところです。心から感謝を申し上げます。また、同窓会の皆様には、機会がありましたらさらなる御理解と御支援を賜りますようお願いいたします。

私は、本年度の重点目標として、生徒には「真のリーダーを目指せ」とまた教師には「生徒と共に高まる向上心を持つように」と語ったところですが、生徒諸君は日々、生気に満ちて学校生活を送っていますし、先

生方は早朝課外授業から放課後の様々な指導に至るまで、献身的に取り組んでいます。この生徒や教師の姿は温かい保護者会や同窓会が築いてこられた校風に他ならないと感じ入っています。

私は校長として、この校風を尊重しつつ、私の教育理念である「自ら心身を鍛える生徒の育成」の下、次世代に羽ばたく志を持った生徒を育成するため、教職員一丸となって努力をしまいたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

最後になりましたが、関東同窓会の皆様の御健勝と会の御隆盛を祈念して、ご挨拶と致します。

退任のご挨拶

前校長 石井利男



関東支部の皆様におかれましては、益々お元気にご活躍のことと拝察申し上げます。私儀、本年3月末に無事に定年退職の日を迎えることができました。同窓会や保護者会の皆様方のご理解とご協力のもと、先生方のご尽力を得ながら後輩の生徒たちとともに充実した日々を送ることができたことを本当に有り難く思っています。

3年前に、19年ぶりに母校に戻ってまいりました。前回は、戦後日本の経済が絶頂期からバブル経済の狂乱に突入する頃でしたが、今回は、一転して日本の経済や社会状況が非常に厳しい条件に晒されている時代でした。以前ご一緒させていただいた同僚の先生は一人も残っておられず、当たり前かもしれませんが、職員室の雰囲気もずいぶんと変わったような気がいたしました。しかし、何よりも気になったのは、生徒たちがこの20年足らずの社会状況の変化の中でどのように変わっていったかということでした。

着任した4月1日は生徒たちにとっては、春季休業中でありましたが、多くの新3年生が職員室の前の廊下や中庭の生徒会館で自学をしていました。体育館や運動場では、実に多くの生徒たちが元氣よく部活動の練習をしています。始業式では胸を張って大きな声で

校歌を歌います。廊下ですれ違った生徒たちはほぼ全員と言っているほど気持ちよく挨拶してくれました。掃除の時間、生徒たちは板張りの廊下を腰をかがめてぞうきん掛けをしています。少しいい加減なところがあつた前回の赴任時と違って、全体として引き締まった感じがいたしました。時代が困難になれば人間の脇が締まってくるということもありましようが、それでも、こういった状況には一朝一夕になるものではなく、それまでの校長先生を初めとする先生方の地道な指導と様々なご尽力の賜であると思えました。

いい方向に変わっていましたので素直に喜んでいいところですが、その一方で、伝統の大きさから、自立心に富む自由闊達な明善生らしさが消えてしまっているのではないかと心配になったのも事実です。しかし、日々の生徒たちとの交わりや、文化部発表会や大運動会といった学校行事とおして、明善生特有の活力や心意気といったものは脈々と引き継がれていることを日を追うごとに確認でき、生徒たちに確かな手応えを感じながら3年間を過ごすことができました。

私は、校長として明善が4校目になりますが、4校ともそれぞれ置かれた状況や条件がそれぞれ見事といっているほど違います。校長は「万能」が求められますが、どうしても得意不得意がありますので、私は、新しく赴任した学校では、その学校(生徒)のために自分の持ち味をどう生かせるかをまず考えるようにしていました。明善の場合は、自分が卒業生であることも自分の一つの持ち味であると考え、それを活かすように努めてまいりました。

その一つが、関東支部の皆様方に2年生の修学旅行の東京班別企業研修にご協力をお願いしたことです。快く、しかも積極的にお手伝いをいただき、生徒たちは非常に充実した研修を積むことができました。この東京研修での出逢いや経験が、多くの生徒たちがこれからの人生を生きていく上で確実に何らかの良ききっかけをこれからも与えて続けてくれるものと確信しています。

総会には、幸い3回とも出席することができました。1回目は、大勢の先輩方の中で緊張しましたが、2回目、3回目は、本当に楽しみに参加させていただきました。また、夏のお盆休みには、国立競技場や有明テニスの森で、全国大会に出場した定時制の生徒たちの応援を横断幕を掲げた多くの先輩方にしていただきました。関東の同窓生の皆様と確かな絆を感じながら3年間を過ごすことができましたことに心より感謝申し上げますとともに、関東支部の益々の発展と皆様方のご健勝を祈念し退任のご挨拶といたします。

明善同窓会 会長ご挨拶

同窓会長 41年卒 真木大樹



この時期になりますと代表幹事の瀬戸さんより原稿の依頼がまいります。もう関東支部の総会も近まって来たのかなあ、との思いでいます。

いつもながら関東支部の皆さまには、何かとご指導、ご鞭撻を賜り衷心よりお礼申し上げます。

さて、久留米の方では九州新幹線が鹿児島中央まで開通してもう一年が過ぎました。全線開通の前日にあのいまわしい東日本の大震災がおきてしまい、前途多難の中の開業でしたが、あつという間の一年だったような気がします。関西方面までは久留米から乗り換えなしで、直行出来るようになり大変便利になりました。久留米駅での乗降客数は予想よりやや少し下まわったものの、まあまあとのことですが、関西方面からの観光客など鹿児島、熊本、とりわけ鹿児島島の利用者は予想をはるかに上まわり、ターミナル駅の強さが目立っています。

我が久留米も東西連絡通路の出入口を東口、西口と言っていたのが、一周年を期に東口↓まちなか口、西口↓水天宮口と改められました。東京水天宮の水天宮前駅(半蔵門線)の恩恵があつたのかも？

さて母校、明善校のことを申し上げますと、今年2月より校舎の改築工事が始まり、第1期工事として、新第2棟の基礎の杭打ち工事が進められています。工期は全工程で第1期工事から第4期工事までで平成29年12月には予定の全改築工事が終了の予定です。生徒にとつては騒音や振動など、良いことばかりではありませんが、困難を克服して頑張つてほしいと思います。3年間校長として、明善130周年事業や校舎の改築事業を進めていただきました石井校長先生が3月末で定年退職され、4月より新たに荻校長先生をお迎えし、新しい体制で進んでいます。益々のご活躍を期待する次第です。

校舎改築に伴い、明善百周年記念館(同窓会館)についても、理事会等で検討致しておりますので、方向性が決まりましたら、ご指導とご協力をお願い申し上げます。

明善同窓会関東支部の益々のご発展と各位のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます、ご挨拶と致します。

第45回明善大同窓会へのお誘い

第45回実行委員長 昭和52年卒 喜多村浩司

○日時 平成24年10月6日(土)14時30分開会予定
○場所 創世 (久留米市東櫛原町)
○テーマ 「やっぱよかね 明善」

明善同窓会・関東支部の皆様、こんにちは。



昨年の大同窓会で実行委員長を務め、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。先輩の皆様方が脈々とつちかかってきた伝統あるこの明善大同窓会に、今年も多くの皆様がお越しいただけるよう、また楽しんでいただけるよう、昭和52年卒の頼もしい仲間たちとしっかり準備してまいります。どうぞよろしくお申し込み申し上げます。

今年、3連休の初日になります10月6日(土)14時30分より例年の会場であります「創世」にて開催いたします。

今年の大同窓会のテーマは「やっぱよかね 明善」

「いろんなところで活躍しよる人のおるねえ」という新たな出会いがあり、「お久しぶり。なんしよったとお」とのなつかしい再会があり、久々に集まって、明善時代の思い出など時間を忘れるぐらい続く語り合い……。

皆様にもそう思っていたら楽しい大同窓会にしたいとの想いを込めて決めさせていただきます。

このテーマのもと、今年も、参加者の皆様により親交を深めていただくことを主眼におき、時間の許す限りゆつくりと会話を楽しんでいただける企画にしたいと考えております。

また高校時代を思い出し、心に残る記念品と、ちよっとかわいいい記念品を、ダブルでお持ち帰りいただくと考えております。

当日は、明善52会メンバーが、一生懸命心からのおもてなしで皆様をお迎えいたします。久しぶりに久留米に里帰りしていただき、旧友の皆様や、先輩・後輩との親交を深めていただければ幸いです。

関東支部会長挨拶 ニュースな総会にお運びを

関東支部会長 昭和41年卒 別府秀喜



東日本大地震から1年余、被災地の復旧は遅々として進んでいません。福島原発の放射能災害が元に戻るには30年以上かかりそうです。改めて一日も早い復興をお祈りするばかりです。

同時に同窓会総会・懇親会に元気で参加できることを感謝する次第です。さて、同窓会関東支部の活動につきましてご報告します。

次の活動を行っています。▼関東支部HPの再構築。古賀尚之君(45年卒)が尽力。皆様のアクセスを待ちしています。▼2年に1度の名簿改訂は五十嵐恵美子君(47年卒)が奮闘。▼原稿集めに苦戦する会報は内田直人君(51年卒)が四苦八苦しながら奔走。▼昨夏、青木繁茂後100年記念「よみがえる神話と芸術」

「青木繁茂」に負けず、多彩な同窓生が主催する音楽コンサートや彫刻・絵画・書道展が活況。▼懇親ゴルフ大会は春と秋、世代を超え賑やかに開催。▼定時制陸上部は、真夏の国立競技場で開かれる全国大会出場常連。今年も応援に行きます！▼現役生徒修学旅行時の企業訪問に対応した多くの卒業生に感謝。今秋も宜しく。▼秋田高校野球部OB会「矢留会」との親善試合は昨年大敗し1勝3敗。懇親会は4連勝。第5戦は11月3日、人工芝を張替えた東大球場で開催。▼

対外交流は「東京福岡県人会」(会長は32年卒の大坪修氏。本年2月就任)や「くるめつつし会」(会長は31年卒の松平信之、久留米同郷会「高牟礼会」への協力……など多岐にわたります。

昨年の総会で申し上げました「総会・懇親会」の開催期日につきましては、来年から風薫る5月開催に変更します。加藤ムツ子副会長(42年卒)を中心としたプロジェクトチームが昨年からの検討を重ね、先の幹事会で明年5月18日(土)開催を決定しました。

同窓会関東支部構成員の高齢化や季節的要因、他校同窓会や久留米同郷会の開催時期、企業の行事予定などを考慮し決まったものです。今年、母校校舎の大改修工事開始、母校校長の交代(新校長に萩八州夫氏)、ダルビッシュ有のダリィグでの快投、25年ぶりの金環日食(5/21)、世界一高い東京スカイツリー開業(5/22)、ロンドン五輪開催など話題の多い年です。今春の葉室麟氏(45年卒)第146回直木賞受賞も嬉しいニュースです。

わが同窓会には多様な先輩や後輩、話題を持った仲間が大勢います。同窓会「総会・懇親会」にお運びいただき、そんな話題で楽しい一時を過ごしませんか。粉骨砕身、休日返上で準備に当たっていただいている幹事団(59年卒)諸君の「尽力に心から感謝します。(了)」

明善同窓会関東支部役員名簿

Table with 2 columns: Position and Name (Year Graduated). Includes roles like 会長 (別府 秀喜), 副会長 (土肥 義政), 幹事長 (瀬戸 渡), etc.

中学明善校生き残り82歳の同期会

昭和21年卒 樋原茂則

「明善りんどう会」会報が去年の12月で第50号の記念特集号が発刊された。年に2回、30ページの会報がわれわれ同期生に配られてくる。明善りんどう会、井上敬成会長の25年にわたる尽力のおかげである。これだけの同窓会誌の発行は他に類がないと思っている。

「中学明善校」卒の仲間ももういらいない生きのこり組である。我々は太平洋戦争勃発直後の昭和17年入学で、中学生生活の大半を戦時体制下で過ごした、特異な体験を持つ学年である。制服は国防色(緑色)の綿とスフ混紡、帽子は戦闘帽、靴は鯨皮製。学校の教科も軍事教練でしぼられ、音楽図工もなく、英語は敵性語で廃止。春は麦刈り、秋は稲刈り奉仕。博

多の西戸崎海軍宿舎に泊まり込みで飛行機作りに。3年生になると、学徒労働員で組ごとに別々の軍需工場に働かされた。大人の工員が戦場に駆り出された後を、15歳の少年がやらされるのだから相当にきつい仕事だった。5組のうち1組は上陸してくる米軍に対して、水際迎撃作戦の要員に指定されていた。軍は徹底抗戦、一億玉碎を呼びかけて、我々も死を覚悟させられた。



敗戦と虚脱状態のうちに卒業式も賞状もなしに21年と22年の2回に分かれて卒業をした。共に苦勞し死を覚悟させられた異常体験のなかで、我々りんどう会の深い絆ができていっていると思う。明善りんどう会関東支部は春秋2回、お互いの無事を確かめ合って会合を開いている。この春は八重桜満開の浜離宮を散策して、4時過ぎから総勢10名で有薫酒場に入って、久留米商業出身のご主人、松永さんの心配りの行き届いた昔懐かしい郷土料理と酒に楽しいひとときを過ごした。

有薫酒場には全国各地の高校名が入ったファイルがずらりと並んでいる。訪れた客が母校への思いをつづる寄せ書きノートである。二千校めのファイルが東日本大震災で被災した岩手県立宮古高校であった。2月にその記事が朝日に大きく取り上げられて更に30校が増えたと、おかみの松永洋子さんが語っている。今回の懇親会のテーマはとおきの話の披露。それにしても焼酎も酒もよく飲むこと。あつとゆう間に2時間半が過ぎて、この秋10月11日に再会を約しておひらきとなった。

エイプリル・フルの集い

明善3・1会 松平信之

明善3・1会では、この数年間、エイプリル・フル、東京のサクラの開花時期に合わせて新宿御苑のサクラを愛でたのち、西新宿のヨルの会場に集まることになりましたが、去年は東北大震災のために中止した

ことにより2年ぶり、4月2日の開催となりました。

さて、例年ですと満開のサクラに花見客で大混雑となるところ、ことしのサクラは3月中寒波が居座って4月になってやっと3、4分咲きといった状況でした。新宿御苑には、新潟からの神代さん、東海からの副島さん、養父さん



を含めて12名が集まり、今は盛りのシダレザクラなどを眺めながら散策ののち、会場までタクシーを使うひと、新宿のまちの雑踏を抜けて、新宿西口の「季膳房」へ。

久留米と薩摩の焼酎が用意された会場には、さらに仙台からの藤吉さん、大阪の山田さんを含む総勢30名の皆さんが集まりました。

会では、開会の挨拶のあと、思い出に話を杯に杯を重ねるうちに恒例の白旗の歌、校歌の斉唱を済ます暇もなく時間が過ぎてしまいました。

今年からは、我々は皆さん後期高齢者を迎える時期となってきましたので、そろそろ夜の会合は止めて早めに帰宅できるよう昼間の会合をと考えております。

「明善卒業50周年」と「古稀」を迎えて
「生きた証」として同期で記念誌を制作

明善37会 足立三千男

昭和37年に明善を卒業した私たちは、今年「卒業50周年」と「古稀」を迎えます。私たちは第二次大戦中に生を受けましたが、戦後の復興期、高度成長・成熟期、バブル崩壊・混迷期と平和な中にも激動・激変の時代を生き抜いて今ここにいます。この間、私たちの生活環境は、電気もまともに点かない廃墟から物と情報があふれる豊かな社会へと、想像もつかない変化を遂げました。

しかし、私はいつの時からか定かではありませんが、「私たちに、世の中がいかに変わろうとも決して変わらぬ大切なことがある」との思いを強くしてきました。その思いとは「私たちは、常に人に生かされ、人にと

もに生きている」ということです。

これまでこの人との関係の中で、喜び・悲しみ、泣き・笑い、楽しみ・苦しみ、そして希望に燃えたり・失望したり等の様々な人間模様を織り成してきました。このことは、これからも変わらないでしょう。



この思いは、関東在住の同期（関東明善37会）の仲間にも共通するものようです。この節目の年にあたり、同期の中から「生きた証」を残そうとの声が強くなり、明善37会全体で記念誌を制作することになりました。「道半ばにして逝ってしまった友の姿を偲びご冥福を祈りつつ、これまでいただいた幾多の愛情・励まし・導き等に心から感謝し、あわせてお互いに自らのこれまでの頑張りを称え、これからの道のりへの励みとし、さらには後輩・子々孫々へのメッセージ」との思いです。

各人は自分を最も効果的に演出できるテーマ（回想、近況、趣味の話、絵画・書・写真、短歌・俳句、等）と表現方法を選びます。それぞれに作者の思いがこもり、人柄がにじみ出て、全体として充実した魂が宿る素晴らしい記念誌となることを楽しみにしています。記念誌の完成は「祝う会」の開催に合わせて11月初旬を予定しています。「祝う会」では、完成した記念誌と皆の談笑を肴に美味しい酒が飲みそうです。

最後になりますが、この記念誌を先輩や後輩の皆様にもお読みいただくことがあれば37会一同この上ない喜びであります。

気概の会報告

代表 昭和27年卒 井上正夫
世話人 昭和29年卒 長末榮一(筆)

2011年11月11日、池袋のサンS亭で会合を持った。(11という数字に意味がある。9・11、2・11、3・11)

井上氏から、日本は第二次世界大戦で、無条件降伏したのでなく条件降伏であったという江藤淳の文章について、面白い話を聞いた。終戦時の我が国の軍勢力は、陸海空軍を含め、約三百万、空軍機千数百機あつ

たというのである。ドイツの場合とは、まったく異なる状況にあったという。ドイツの首都ベルリンの攻防による壊滅的敗北とは、内容面でも大きく異なる理由がここにある、という説明に、では、なぜ?の疑問が残る。天皇制護持の裏取引があつたのではないか、原爆投下による戦

意喪失も考えられるが、などの話が出た。このころ、ビールジョッキを一杯ずつ飲み干して、「卑弥呼」という麦焼酎ボトルを注文。密教と顕教の違いを確認しながら、「本地垂迹(ほんちすいじやく)神仏混淆の意)から明治維新の神仏分離のプロセスや戦後、マッカーサーの「宗教の自由」までを熱く語り合った。その前に聞いた話が面白い。天皇家の紋章が「菊」であるのはなぜか、東大寺の紋章も菊なのはなぜか。その他天皇家の加護のあつた寺が、皆菊の紋章であることとインドのバラモン菊が関係があるのであるという。



古代インドの前10世紀頃、アーリア人固有の信仰を母体とするバラモン教は、自然現象を神格化した宗教で、日本の多神教信仰とは共通している。井上氏の、バラモンの宗教的影響と天皇制との関わりを改めて感じ取った次第である。このころ、2本目の「卑弥呼」の蓋をあけた。

わき道にそれるが、数年前、長末がインドを旅行した際には、紀元前後にバラモン教が、民間信仰を取り入れて成立したヒンドゥ教の文化を建物の柱に見た。その上部にはイスラムのモザイク模様の円柱が立っていた。一神教で偶像崇拜を否定するイスラム教が我が国に多大の影響を与えなかったのは我が国の宗教文化と相いれないものがあつたからであろうか。

我がゴルフ奮闘記

昭和43年卒 津城俊幸

ゴルフを始めたのは33、4の頃で、最初の頃のラウンドは確か、ハーフ80から90前後を叩いていたと思

ます。それから5、6年ほどで60前後で回れるようになり、更にたまに55前後で回れるようになりました。一時はたまに、42、3で回れるようになりましたが、安定せず、前半42、後半58などと言うことはざらでした。

ここ10年ほどはよくて110前後と言う有様でした。年間ラウンド数も5、6回から10回弱。練習もほとんどせず、たまにハーフ48、9が出ると、ゴルフは気の持ち様とリラックスが第一と気楽に考えていました。そうこうするうちに明善ゴルフコンペが始まり、それに参加するようになり、多分皆勤だと思いましたが、スコアは散々なもので大体110前後。それなりに今度こそと意気込んでやるのですが、結果は変わり映えせず、平成22年10月の明善コンペは116。さすがに嫌になってゴルフ辞めようかと思ったりしましたが、自分なりにあと一歩のところまで来ているのではないかという思いがありましたので、現状を分析しました。

まずグリーン周りのバンカーを含むアプローチショットが最大の問題だと思いましたが、その対策を考えました。幸いに自営業で、2階建て一戸建ての事務所の一階に幅1メートル、長さ5メートルほどのスペースを確保し、床に使い古したマットを敷いてそこでアプローチの練習を始めました。そこで練習し、ある程度の手ごたえを持って臨んだ平成23年5月の明善ゴルフコンペも114と言う散々な目にありました。その事後検証は練習の成果を試すのに憶病過ぎたという事でした。

その後も室内でのアプローチの練習を続け、その後の数回のラウンドで徐々に練習の成果が出始めました。そして平成23年10月の明善ゴルフコンペ。朝から台風並みの雨風でこれはっきりコンペ中止、温泉に入って宴会で終わりと、良い気になって行きのバスの中で焼酎を飲み続けていました。しかし雨はすぐやむからコンペ開始と言う事になりました。出だしボギーでしたが、結果は47、47の94。確かハンデが32でしたのでネット62で優勝できました。

その後もその室内練習は続けていますが、バンカー、アプローチショットは練習でも納得できるのは半分もなく、3割程度。しかしだんだんと練習のコツとポイントが絞れてきている感じがします。年と共に頭も体も記憶力が悪くなり、思うようにいきませんが、少しでもさらに腕を磨き、これからも長くゴルフを楽しみたいと思っています。

昭和44年卒業、だから69会！

昭和44年卒 平成24年度幹事 平井勇夫
 ロッキューカイ！嗚呼何と言う響きの良さ、流れるような余韻でしょう。あと少しでっぺん(シチジュウ)に届きそうで、なかなか到達しないもどかしさ。あと少しと少しが連続してこまで離れずに来たもう最高の仲間たちである。毎年合わせる顔がだんだんと若返ってくる愉快なグループ。もうそこには杵もなければ壁もない自由空間が広がる楽しい世界となるのです。この集いがここまで脈々と続いて来たのには訳が？そんなんです。忘年会の終わりに、自薦他薦も含め半ば強制的に翌年の幹事が決まってしまうシステムなのです。それも男性陣と女性陣のペアで当番するわけですから自ずと意気込みが違ってきます。

最近、20/7赤坂、20/11西新宿、21/7八重洲、21/11品川、22/7銀座、22/12新橋、23/7品川、23/11銀座といった具合で開催しています。7月はもちろん関東支部総会の二次会として開催しています。当番幹事はプラス名所・旧跡めぐりの企画力も發揮して固いきずなを守っていきこうと、日々ストレスのたまる暇もないほど智慧を絞り、すでに全員が校訓である「楽天」の境地に至っているのです。

さて、69会の恒例行事にはもう一つゴルフ愛好会があります。飲み会にゴルフとくればふた月に一回は同期と顔を合わせる事になり、ますます同士の結束が強まってきました。最近の開催状況は、20/3富士屋ホテル仙石GC、20/8都GC、21/3富嶽CC、21/9沼津GC、22/9鳥羽CC(還暦記念)、22/10三島GC、23/2プリジストンCC(久留米)、23/6蓼科高原CC、23/11ラフォーレ修善寺CC、24/3かんなみスプリングCCでプレーしてきました。ほとんどの会が一泊ということもあり、三度の飯よりゴルフ好きのみんなは翌日のプレーのことも忘れ大賑わいの前夜祭となっています。プレー中はもちろん筑後弁丸出しの会話が盛り上がり、キャディーは？の連続です。これに加えて関東支部コンペにも69会として積極的に参加し、先輩後輩との交流に努めています。これもひとえに名幹事の嶋田哲君のお陰であり、彼なくして69会ゴルフ同好会の存続は考えられません。本年も新旧幹事の引き継ぎも無事終わり、7月、11月の定例行事に向け智慧を絞っているところです。(忘年会はそろそろ温泉旅行もいかな・・・)

明善69会は「克己・尽力・楽天」を肝に銘じ、これからも明るく元気に頑張ってまいります。ほんなこつやけんね！

有薫に集う42年卒同窓会

昭和42年卒 加藤ムツ子
 明善42年卒 関東地区同窓会は、42年卒の高山喜一郎さんがオーナーでもあることから赤坂東急プラザ3Fにある赤坂有薫で開催しています。時間はだいたい16時〜21時くらいまで、時間はたっぷりあるし、二次会の会場の心配をすることもなく幹事にとってはとてもありがたいです。



赤坂有薫は、今から27年前、昭和60年に開店しました。その当時は私達も30代、仕事は忙しく、女性達は、子育てで真つ最中の人が多く開催も2、3年に1度ぐらい。参加者も男性が多かったようです。(当時私は信州上田で子育て奮闘中)

42年卒の同窓会が一気に盛り上がったのは平成7年、明善同窓会関東支部総会・懇親会の担当でした。福田武夫さんを中心に、シーナアンドロケッツの鮎川誠さんをゲストに迎え、会場が如水会館でしたので、実演こそできませんでしたが、大いに盛り上がりました。また、関東支部前会長の松平信之さんが所持していた8ミリ映像をお借りし、昔の明善を再現するビデオの編集をし、皆様に見ていただいた事も懐かしく思い出されます。

次の結集は、平成14年、久留米での大同窓会の担当幹事の時、関東地区からも多数参加しました。このときの明善同窓会会長は、42年卒富安俊夫さん、実行委員会委員長は渡辺一生さんでした。

それから数年後、還暦同窓会を京都でと、久留米の幹事中心に着々と計画がすすめられていきましたが、新型インフルエンザの影響で直前に中止となってしまいました。何か心残りであるいつの日か開催できる機会があればと思っています。

その他の行事としては、平成22年10月にアサヒビール柳茨城工場に見学に行きました。42年卒の松延章さんが当時工場長をしてらした関係で、実現しました。

ちなみに奥様(松延君子さん)も42年卒です。当日は天候にも恵まれ地上数十メートルからのパノラマの風景を楽しみながら、特別室で出来立てのビールを心ゆくまで味わいました。

昨年からは明善同窓会関東支部総会・懇親会と日程が近いということで、例年7月開催だった42年卒同窓会を、5月末に変更しております。ただ、昨年はご存じのとおり、東日本大震災の影響で開催が危ぶまれましたが、こんな時こそ同窓会を開いて元気を取り戻そうということで開催にふみきました。当日は雨風強く台風なみに荒れた天気でしたが、予定した方は全員参加で、幹事一同胸をなでおろし、「九州もんは、血があつか。嵐に負けん」と改めて実感しました。このときは高山さんのご協力で会費の一部を大震災義捐金として日本赤十字社を通じ寄付いたしました。

今年も同じく赤坂有薫で同窓会(6/2)が予定されております。ここ数年、井戸廉一さん 原野康義さん、吉武修一さん、そして連絡係を一手に引き受けていただいている鳥越素子さんに幹事としてお世話いただいております。

最後に永田見生さんが平成24年1月、久留米大学の第10代学長に就任されました。上京された折には赤坂有薫で是非、祝宴をと計画中です。

関東有志還暦旅行

本卦還りともいうらしい。還暦のことである。我々、昭和45年卒業の生まれ年の干支は「辛卯」、早生れが「壬辰」。還暦とは生まれた年の干支を迎えること。つまり、数えて61歳になることだから、昨年と今年にほんどの同期生が還暦を迎えた。事の起こりは昨年8月のある



昭和45年卒 井上正則

日。その日、同窓生のお嬢さんのご縁でお誘いがあつた宝塚歌劇東京公演の観劇のため、同期生の何人かが集まった。折角だからということで、公演後の流れで、都心にある同期生の鶴田君のお宅でちょっとしたパーティが催された。そして、その場であつという間に還暦旅行が決まった。日時は、ほとんどの同期生が満60歳の誕生日を迎えているであろう3月10、11の両日。場所は、箱根仙石原にある彌永君の会社の施設を使わせてもらうこととなった。

当日はほとんどの参加者が、お昼前に東京駅に集合し、東海道線のグリーン車で小田原へ向かった。小田原で、先発組や小田急線利用組と合流し、参加者が全員揃う。総勢16名。

小田原からは、箱根登山鉄道で早雲山へ。決して天気は良くなかったのだが、列車は通勤ラッシュ並みの混みかただ。早雲山からは、ロープウェイで大涌谷まで。窓の外は絶景と言いたいのだがあいにくの天気で霧の中。視界はぼせろ。まあ、高所が苦手な私には願ったり叶ったりではあつた。

大涌谷は、3月にもかかわらず雪が舞っていた。風と寒さにもくじけず、寿命が七年延びるといわれる黒卵を食すため、駅から十数メートル程離れた売店へ向かう。そして、全員、七年寿命が延びたのを確認した後、一路仙石原の宿舎へ。会社の保養施設ということではあるが、とても立派な施設だ。温泉は掛け流し。お湯はほぼ透明。かき混ぜると湯の花で乳白色となる。心なしか肌がすべすべとなった気がした。女性陣もこれですます美しさに磨きがかかったようである。慶賀に堪えない。夕食も豪華なものだった。前日、米国から戻ってきた宮内君が現地調達してきたカルフォルニアのナパワインや、山口君持参の岩国の銘酒「瀬戸内」などを楽しみながら、食事と語らいが進んでいく。食事が終わったなら、ロビーでそのまま2次会。あつという間に時間が過ぎて行つた。

翌日は、マイクロボスで鎌倉へ。極楽寺と鶴岡八幡宮を訪れる。ちょうど一年前の東北大地震で亡くなられた方の冥福を祈りつつ参拝を済ませる。鎌倉からは横浜へ。中華街で昼食を楽しんで今回の旅行の締めとなる。場所は孔子廟真向かいの「荔香尊酒家」。次から次と出てくる料理の素晴らしさ。楽しい仲間との食事というのを割り引いても実に美味であつた。同期の中でも食事にはうるさい豊島くん推薦の店だから当然といえは当然だ。

あつという間の一泊二日の旅。皆、「またこのような機会が持てるといいね。」といいながらの解散となつた。

明善四六会報告

昭和46年卒 江端一博、本村龍史

明善四六会は今年度で還暦を迎える。明善卒業後、早41年が過ぎたことになり。本当にあつという間であった。平成23年度の明善四六会は、春の宴会版と秋の旅行版があり、おまけに、同期全員を対象とした還暦旅行まであった。

春の宴会版は、日本貨幣博物館で貨幣のあれやこれやを見学した後、銀座5丁目まで歩いて「銀波」で宴会となった。今回も久しぶりの参加者や、遠方からの参加者もあり、結構賑わった。

秋の旅行は、1日目、栃木市の蔵の街に立ち寄る。ここは、古い蔵が並ぶ町並みを愛でるところだが、文化庁が選定している「重要伝統的建造物群保存地区」には登録されていない。巴波川(うずまがわ)の両側に蔵が並び、柳の木がところどころに植えられている。さほどには距離がない町並みは、柳川や近江八幡の風情。以前行った、佐原もさぞや、この景色だったのだろう。舟に乗って、しばらく川遊び。この巴波川はかつて水上輸送に使われていて、大江戸は日本橋まで下っていたそう。両岸の小道は、通行目的より、両側から舟に綱を張り、人力で曳き上げるための道だったらしい。(荒川流域や霞ヶ浦など、関東の水運が盛んな地方ではどこもそんな運搬をやっていた、と聞いたことがある。船頭の甚句を聴きながらのんびり乗っていると、岸から投げられたエサに群がるコイに、水を跳ねられた。

夜は、栃木県那須郡那珂川町の馬頭温泉南平台温泉ホテルに宿泊した。大衆演劇などもあると聞いていたが、夕方の開演が食事時間と重なり見学できなかった。翌13日は、バイキング形式の朝食をたっぷり詰めて、いざ、今回の主目的である袋田の滝へ。袋田の滝は茨城県大子町にあり、日本の滝百選に、また、那智大滝(那智勝浦)華厳の滝(日光)とならんで、日本三名瀑のひとつに数えられている。巨大な数段の岩壁を水がかけ降りる滝で、那智や華厳とはちがう。ちなみに、四六会旅行では、これまで日光龍頭の滝・



華厳の滝・霧降の滝、沼田市老神温泉吹割の滝を訪れている。この日は「茨城県民の日」で、入場料は無料、他都府県民もご相伴にあずかった。途中に、そば打ち道場があったので、滝からの帰りに、昼飯を兼ねてやってみようと、申し込みに行ったものの、「今日はそば屋のお客が多いので、どうかご勘弁を」と断られてしまい、元氣なミチコおばあさんが切り盛りしている田舎屋で、田舎そばを食べて、帰路につくことにした。

平成24年2月11日、12日には全同期生に参加を募り、還暦記念旅行が実施された。福岡方面在住者、近畿在住者、関東在住者が京都に集合し、同期会をし、翌日バスを貸し切り、お伊勢参りに行った。関東支部では、日程が合わず当然参加すると思われたメンバーが不参加で、やや残念であったが、過去どうしても参加が少なかった女性陣の参加比率が今回は異常に高く、また、卒業以来、初めてお目に掛かる同期生も多数おり、和やかに時間を共有した。移動のバスでは、本当に知識豊富な若いバスガイド嬢が出す質問に悉く正解を出し、バスガイド嬢の間違いを指摘するなど、明善OB、OGの面目躍如だった。伊勢神宮では全員揃って各人銘々の思いを胸に参拝した。

同窓会関東支部活動の思い出

昭和45年卒 高田 孝

私が同窓会関東支部幹事会に参加したのは、2007年からである。45年卒の幹事として、前任者Mくんから私とIに白羽の矢が立ったのであるが、初めは月に一度、第4木曜日の幹事会に出席すればいいといった消極的参加であった。

しかし、回を重ねるごとに活動することが何故か楽しくなり、いつの間にか、積極的参加に変わっていったような気がする。

この幹事会は、年代の幅が広く様々な年齢の人たちの集まりであるが、「明善高校卒業生」ということで繋がっている。皆さん同じように母校を愛しており、誇りに思っている。この会に参加させていただき、私の中で漠とした存在だった「明善高校」が現在では確実に大きな存在となっている。

私が参加した具体的な行事としては、関東支部総会・ゴルフコンペ・定時制陸上全国大会の応援・弁論大会の応援・野球部OBによる秋明戦の応援・忘年会他飲み会等々である。

関東支部総会・定時制陸上の応援は酷暑との戦いであり、ゴルフコンペは雨との戦いだった。秋明戦では、

先輩女性の応援野次が素晴らしかった。また、私は具体的な協力はできなかったが、3年前から関東支部では、明善高校2年の修学旅行時の企業研修の実施に協力している。企業・議員・公務員等の先輩を訪ね、有意義な研修となっている。

私は昨年還暦を迎え、同期といろいろないイベントを企画し実施することができた。また今年は、故郷へ帰郷し、この5月から第2の人生のスタートをきることにした。

関東支部での活動は短期間であったが、先輩諸氏並びに同期・後輩の皆様のおかげで非常に充実したものととなり、今後の私の人生にとって大きな財産を手に入れることができた。

関東支部の今後益々の隆盛を祈念する。

「よいかい」(S41年卒同期会)を2年ぶりに開催

昭和41年卒 平成24年度幹事長 原秀一

4月5日、2年ぶりに日本プレスセンターで開催。昨年は東日本大震災があり、同期の中にも被害を受けたメンバーがいて、毎年恒例の「よいかい」を自粛した。

開催当日の東京は、快晴の中ぐんぐんと気温が上がり、桜の開花が一気に進むほどの陽気となった。会場前の日比谷公園の桜も勢いづき、気の早い一部の桜は満開。

今回は30名の出席者で6時半から開宴。寡黙な加藤光彦君と元女子アナの二宮時子さんの司会の下、原秀一幹事長の挨拶と乾杯、懇談を挟んで、よいかい諸氏の近況報告を順次行った。

トップバッターは初参加の中村純治君。受付で「どなたですか?」といわれたとこで、46年の時間を感じさせた。関東以外からも参加。福岡から駆けつけた元日弁連副会長の藤井克己君、広島から馳せ参じた西日本高速道路エンジニアリング中国株社長の佐々木芳文君が近況報告。ご招待の故岩原武司君(元同窓会関東支部代表幹事)の奥様と長男・雄幸君も挨拶に立った。



東京福岡人会

新会長に大坪修氏就任

東京福岡人会理事(昭和44年卒) 瀬戸 渡



昨年末に急逝された東京福岡人会会長山本卓真さん(富士通株名誉会長)に代わって、県人会は大坪修(おおつぼおさむ)副会長を新会長に選出した。

大坪修さんは、1938年(昭和13年)6月1日生まれ、明善高等学校を1957年(昭和22年)に卒業し東京大学理科二類へ入学し、医学部へ。1964年(昭和39年)に卒業。1965年(昭和40年)、東大附属病院第二外科入局。1977年(昭和52年)、東大医学研究所附属病院人工臓器移植科講師就任。1987年(昭和62年)、東大医学研究所附属病院人工臓器移植科助教就任後、虎の門病院外科腎センター1部長に移籍。1993年(平成5年)、自ら定めた外科医としての55歳定年に従い、妻の公子さんが父から受け継いだ病院経営に参加。

現在特定医療法人大坪会会長、財団法人健康医学協会理事長、東都医科大学学長など要職を兼務され、仕事と趣味、ボランティアの三つを3:3:4の割合でこなすことを目標に忙しい日々を送っております。(東都医科大学HPより抜粋)

コンサートのお知らせ

昭和56年卒 秋永佳世



一昨年の久留米石橋文化ホール、昨年の東京オペラシテイリサイタルホールの演奏会の折には同窓の皆様にたくさん足を運びいただきまして、本当にありがとうございました。紙面をお借り致しましてお礼を申し上げます。

さて今年、9月22日(土)カトリック松原教会(京王線・明大前駅徒歩3分)にて「ピースフル・コンサート」と題しまして、コンサートをを行います。3人の作曲家による「アヴェマリア」や「主よ、人の望みの喜びよ(バッハ)」「アヴェ・ヴェルム・コルプス(モーツァルト)」をはじめ、メゾソプラノとソプラノのお仲間と一緒にソロあり、2重唱3重唱ありとたつぷりと歌を堪能していただけるプログラムとなっております。ピアノと教会据え付けのオルガンの伴奏の違いもお楽しみいただけます。

チケットは3,000円(全自由席)となっております。お問い合わせはエンゼル音楽事務所
電話 03-3333-0413
E-mail: angelongaku@yahoo.co.jp
までお願いいたします。

心が穏やかになるようなひと時をお一人でも、ご家族やご友人とでもお楽しみいただけますように。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

総会幹事を振り返って

昭和58年卒 平成23年総会幹事 安藤 聡

『高校の同窓会? 30年近く会っていない同級生と何を話せばよいのだろうか? 進んだ道がそれぞれ違うのに話して楽しいのだろうか?』その上、先輩方もたくさんいらっしゃるだろうし...』というのが私の同窓会に対するイメージで、非常にネガティブなものでした。そういうイメージから、平成23年度の関東支部総会の幹事を引き受けざるを得なくなった時、あまり気が進みませんでした。一人でやることは無理なので、まずは東京で働いていることがわかっていた同級生の橋本光弘君に電話で協力を要請し、次に幹事会から教えて頂いた同級生幹事の豊福一朋君(因みに、高校時代は一度も話したことが無く、顔も知らない仲でした)にメールで連絡することから同窓会の準備は始まりました。

最初の幹事ミーティング時はまだ東京在住の同級生

が見つからず、橋本君と豊福君を含む5名からスタートしたように記憶しています。その後、地道な「同級生探し」と新たに加わった同級生のネットワークにより徐々に人数が増え、招待状発送時には10名になり、総会当日には20名以上の同級生が集まることになりました。スタート時のことを考えると、本当によく



ここまで集まったと思います。最初からいる幹事団、途中から参加して協力してくれた同級生、当日参加でいろいろと頑張ってくれた友人たち。皆の協力で総会が無事終了したこと、幹事としては感謝の一言です。総会としての成功・不成功は参加した先輩や後輩のみなさんにゆだねるとして、「58年卒の同窓会」としては大成功だったと思います。正直なところ「ちょっと面倒な役回りだな」と自分自身思っていましたし、他の皆も「無理やり協力しているのでは」と思っていました。しかし、総会が近づくにつれ準備を楽しんできましたし、他の皆もそうだったのではないかと思います。30年近く会ってなくても話す内容はたくさんあるし、別の道を進んだ友達から学ぶことも刺激を受けることもたくさんあることに気づかされた総会幹事でした。

最後になりますが、総会準備と運営に協力して頂いた諸先輩方、本当に有難うございました。

今年の関東支部同窓会幹事です

昭和59年卒 淡河英明



私は生まれてから大学生までを福岡で過ごし、就職後はずっと幸か不幸か関東暮らしで、こちらでの生活も福岡にいた時間とほとんど変わらないくらいになってきました。こんなに長くいるにもかかわらず、実は昨年まで明善同窓会関東支部の存在すら知らず、平和?な生活を送ってきました。ちょうど昨年の春頃だったでしょうか、会社の先輩である橋本光弘さんか

第4回秋明戦 連勝ならず

昭和51年卒 内田直人

秋深まった11月13日、文京区本郷キャンパスの東京大学野球場にて秋田高校野球部OB会「矢留会」と明善高校野球部OB会「明球会」の対抗戦「第4回秋明戦」を行った。両校野球部、縁ありいずれも明治30年(1897年)創部の伝統高、創部110年の4年前から交流戦を開始した。明善1勝2敗で迎えた第4戦、明善高校は甲子園出場19回を誇る秋田高校と互角を目指した熱い戦いだった。

わが明善は別府監督のもと、先発の68歳草場投手はじめ往年の名選手約30名の老若野球部OBが勢ぞろい。一方、秋田は一昨年の雪辱をかけ、甲子園経験者も呼び寄せ連敗阻止に向け若手主体の精鋭選手を多数投入した。初回の秋田の猛攻、6点先取で苦しい戦いで始まる。明善もじわじわ追い上げ、第3回交流戦の5点差からの大逆転の再現を狙う。しかし、打撃に火を噴く秋田打線、鋭い打球が外野を転々、小玉監督の事前の命令で若手が各自素振り500回で望んだ効果が現れ、追加点を重ねる。明善投手陣は、50歳前後の若手?の山崎、原、久保田と継投するも、今年の秋田の打線は一枚上手だった。結果は、24対15で、残念ながら明善の連勝ならず。

この日の2試合目は、場所を移し上野御徒町のJRGアトムの居酒屋。応援団の大先輩方も交えた交流戦は、久留米弁と秋田弁が入り乱れる乱戦模様、交流戦での試合だけでなく、現役時代の試合について互いの戦績について語り合い、また故郷の昔話の紹介など交流はますます深まった。最後はいつの日か甲子園で聞きたい両校の校歌斉唱で締めくくった。



編集後記

今回は紙面を増やし、文字も大きくし、年に1回ではあります。紙面では各年代の趣向を凝らした同窓会の集まりの様子をうかがい知ることができました。我が同窓会も基本は、宴会で楽しく語り、また同じ悩みを語り合う時間を過ごしており、春季会には地元より8名参加の総勢30名での大盛会で満足。ますます盛り上げるためにも趣向を凝らした同窓会にもチャレンジしていきたいと感じました。

一方で、紙面では届けられない交流の輪がネットのフェイスブック上で拡大中、高校の旧友との再会などがネット上で起こっています。「明善高校」で友達検索すると何千人もの若者の顔写真が出てきます。関東同窓会も若者との交流が進まないことが課題であり、ネットを活用した同窓会活動の活性化を進めていくことも必要と感じています。

なお、関東同窓会ホームページへも情報発信しておりますので、お立ち寄りください。
http://www.jinryoku.com/
(ユーザ名 meizen / パスワード kurume)
会報編集委員会 内田直人(51年)、山下政晴(43年)
五十嵐恵美子(47年)、豊福和弘(54年)